FC岐阜
株式会社岐阜フットボールクラブ
取締役会長 宮田 博之

連載Vol. 84

2023年明けましておめでとうございます

皆様方には昨年のコロナ禍3年目の第6、7、8波の中にも関わらず『みんなのFC岐阜』を熱く応援していただき、心から厚く御礼申し上げます。

昨年6月12日の第12節、鹿児島ユナイテッドFCと対戦した試合は「岐阜市ホームタウンデー」として、コロナ禍で行われた過去3年間の公式戦で最多となる7,827人の入場者数を記録しました。試合も2対1で勝利し、その後のクラブ新記録となる7戦負けなしの試合の一つとして大いに喜んでいただきました。その後、夏以降は思うような結果が出せず2022シーズンは14位に終わってしまい、大変申し訳なく思っています。しかしながら最後まで皆様方の熱心な応援を頂いたお蔭で、平均入場者数は3年間で最多の4,194人でJ3リーグ第3位の入場者数となり、皆様の熱い応援に本当に有難く心から感謝の念で一杯です。

今後は新しい指導体制の元で、確りとしたチーム方針と計画でチームの立て直しを図り、今まで以上に熱い試合で皆様に喜んで頂けるよう一丸で頑張って参る所存ですので、更なるご声援のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

また、2023シーズンのトップチームには4名のホームグロウン選手が含まれていますが、その内3名はFC岐阜アカデミー(中高生)育ちであり、今後のFC岐阜を担っていく選手になることを念願しておりますし、多くの小学生たちがプロ選手を目指してFC岐阜アカデミーに来てくれることを期待しています。

一方、FC岐阜の社会人チーム「FC岐阜 SECOND」は昨年秋の「栃木国体」で準優勝を果たしたメンバーが多数所属しており、チーム自体も東海社会人サッカーリーグ2部リーグから1部リーグに昇格しましたので、更に楽しみなチームに育ってきました。将来はここからトップチームで戦える選手が出てくるのも楽しみにしています。

さて、「FIFAワールドカップカタール2022」グループステージ・グループEにおいては、日本代表チームは過去のワールドカップで優勝経験のある強豪国「ドイツ」と「スペイン」に劇的な逆転勝ちを飾って、グループEトップでベスト16に進んだことは、日本サッカーファンのみならず、全国民の喜びとなりました。そして日本代表チーム初のベスト8入りが期待されたクロアチア戦では延長戦でも1対1で決着がつかず、PK戦で敗れはしましたが、全く引けを取らなかった試合振りと今までになかった試合景色に、日本代表チームへの感謝と大きな誇りを感じました。また、日本から画面を通して見ていた全ての人たちの胸には感動と将来への夢と期待が大きく膨らんだことでしょう。日本サッカーがこの機会を境に、更にファン・サポーター、スポンサーを増やしながら、大きく発展して行くことと確信しました。

FC岐阜からも日本代表に選ばれる選手が輩出できるよう確りしたチームつくりの元に42市町村の皆様から更なる応援を得て、次の目標である500社のスポンサー体制を構築しながらオール岐阜一丸で応援し、喜び、楽しめるチームを目指して参ります。どうかよろしくお願い申し上げます。

写真：©Kaz Photography/FC GIFU